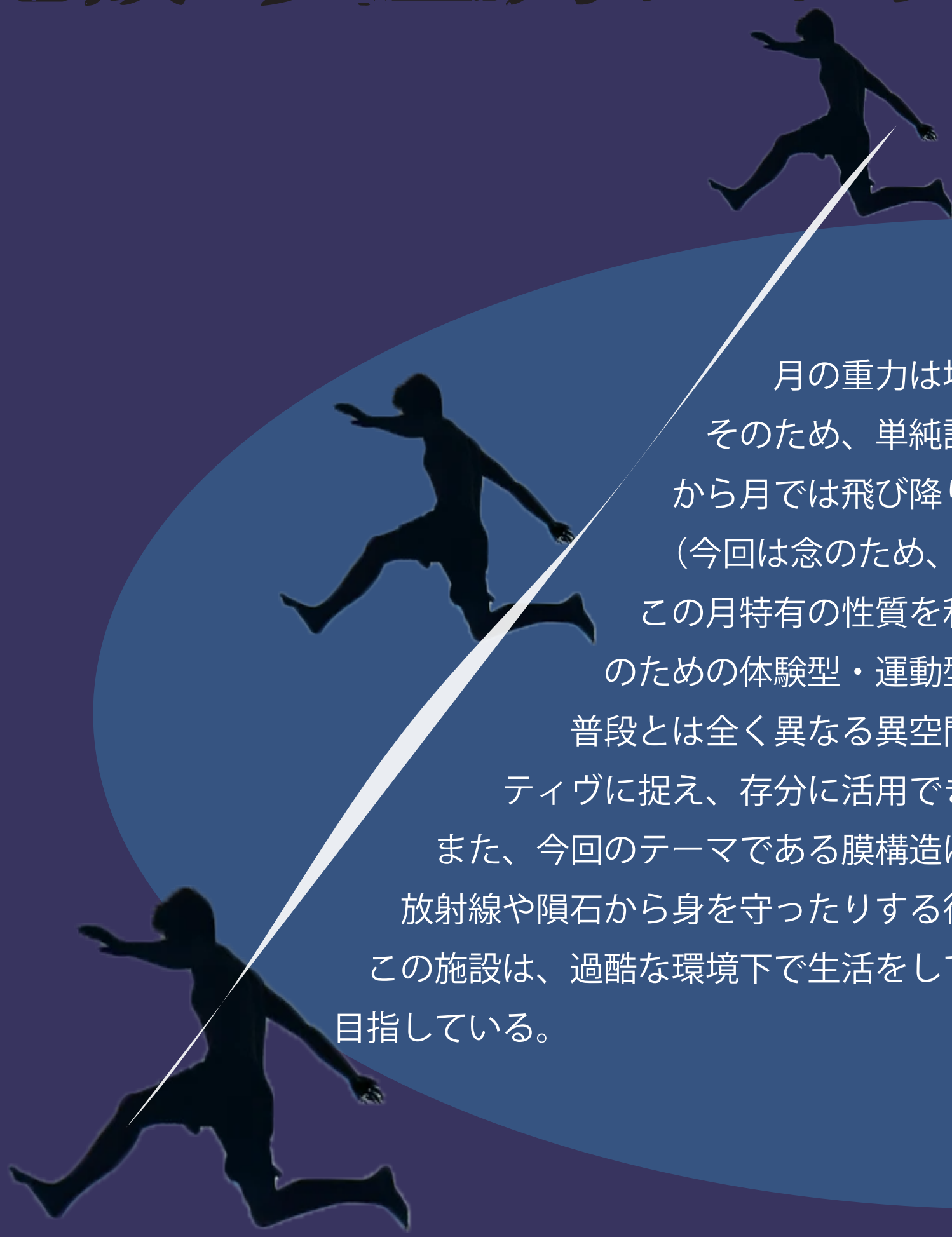


月面レジャー施設 異重力アトラクション

全体パース



月の重力は地球の重力と比較して、約1/6と言われている。
そのため、単純計算すると地球で飛び降りる際の約6倍の高さから月では飛び降りることができるということになる。

(今回は念のため、約4倍の高さで設計している)

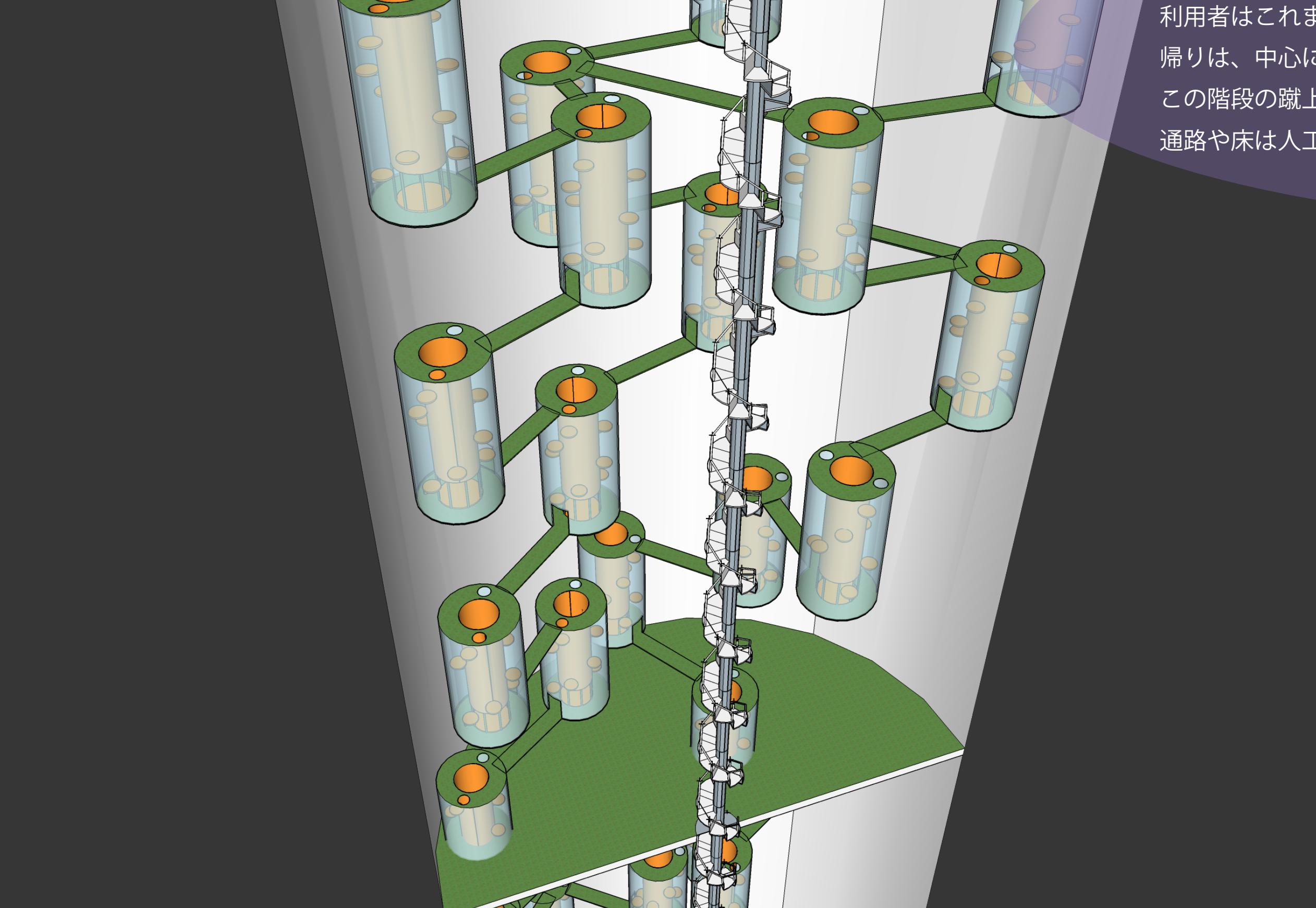
この月特有の性質を利用して、宇宙飛行士の方々や月を訪れた人々のための体験型・運動型アトラクションを制作する。

普段とは全く異なる異空間で生活することになるが、その異空間をポジティブに捉え、存分に活用できるように工夫をした。

また、今回のテーマである膜構造は縦穴をふさぎ、内部に酸素を貯めたり放射線や隕石から身を守ったりする役割がある。

この施設は、過酷な環境下で生活をしている人々にリフレッシュを提供することを目指している。

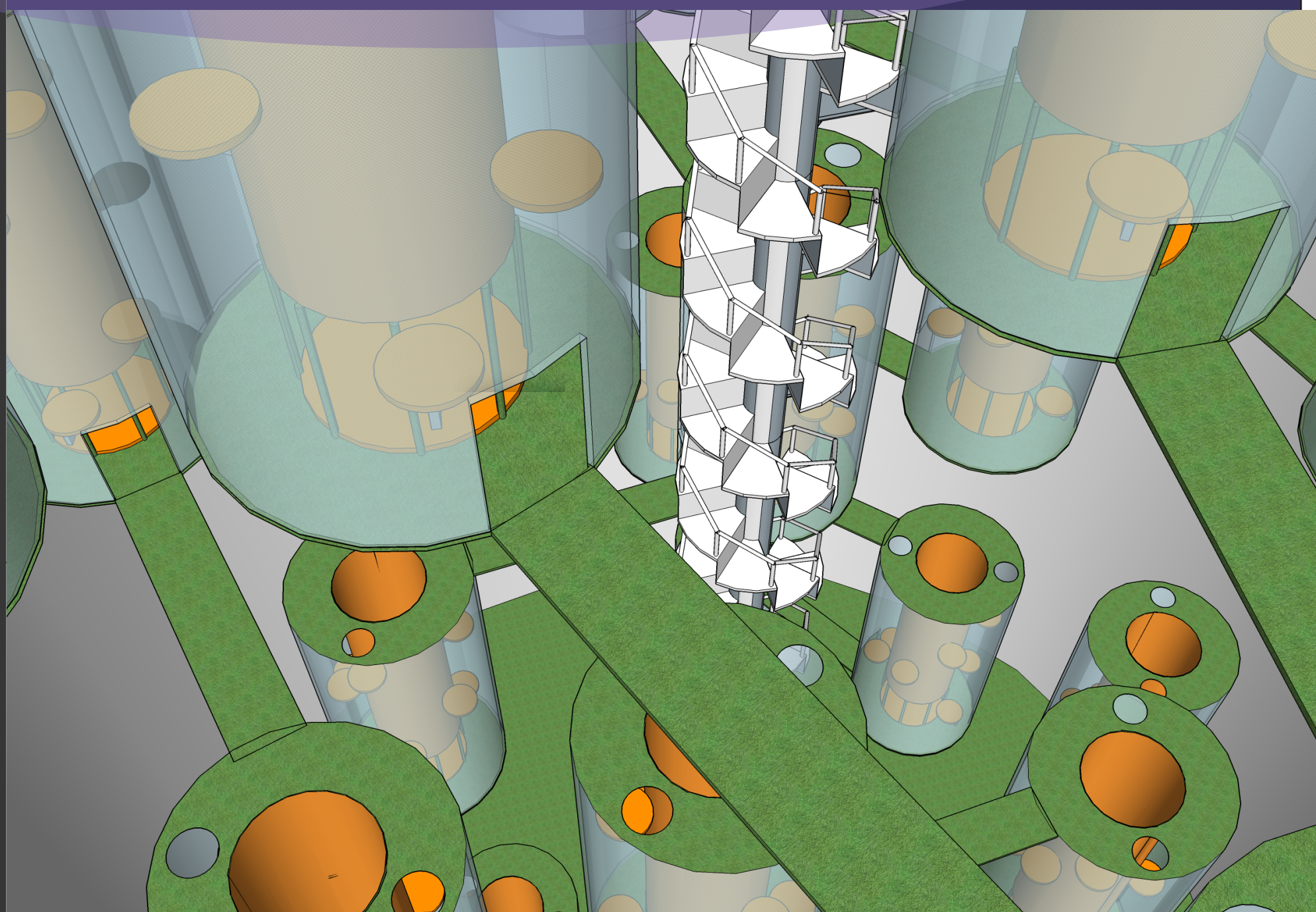
内部パース



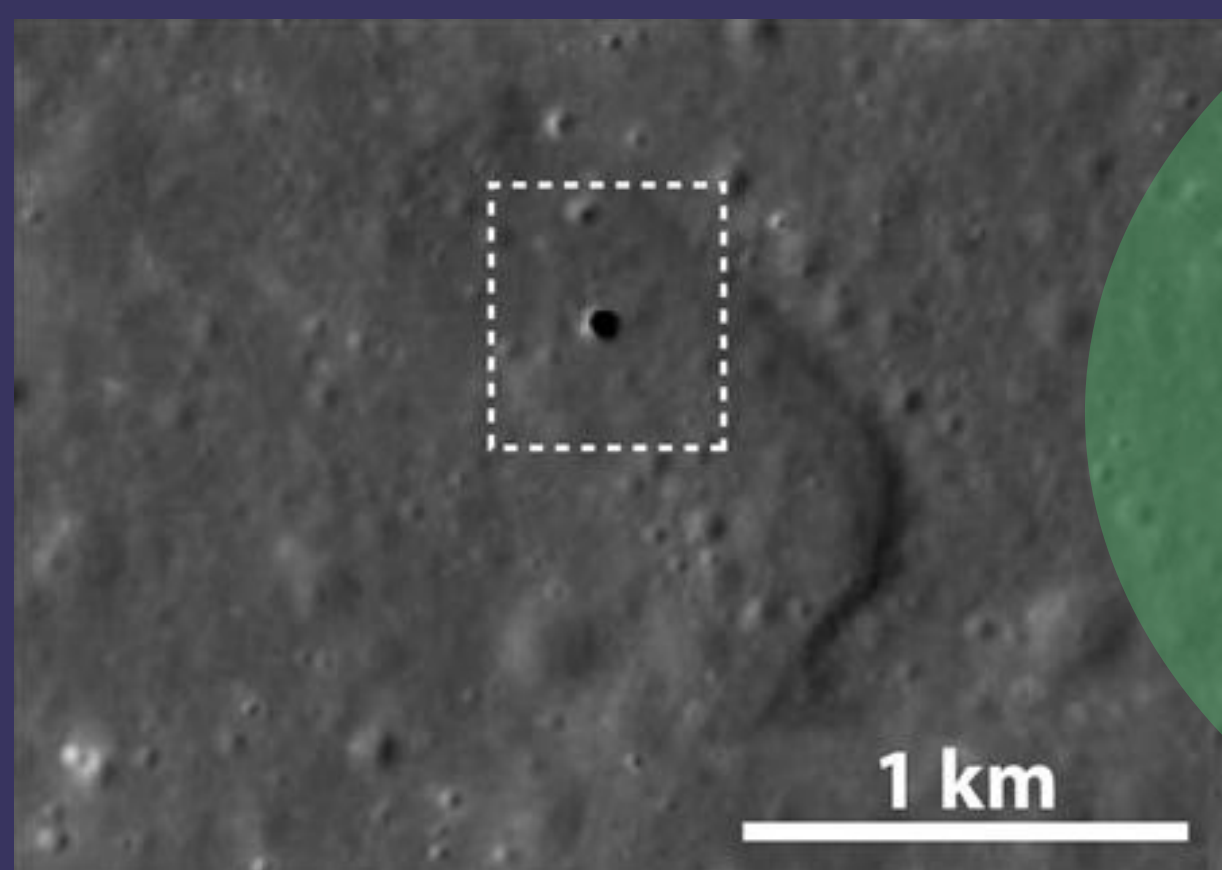
1つひとつの筒状の物のなかに、トランポリン (オレンジ色) が高さ2.4mずつ設置されており、利用者はこれまで体験したことのない「飛び降り」を楽しむことができる。

帰りは、中心に通っている螺旋階段を使って月面に上ることができる。

この階段の蹴上も重力の違いを考慮し、1mの蹴上となっている。(利用者はこの違いも楽しむことができる) 通路や床は人工芝 (緑色) を敷き、感覚が癒されるようになっている。

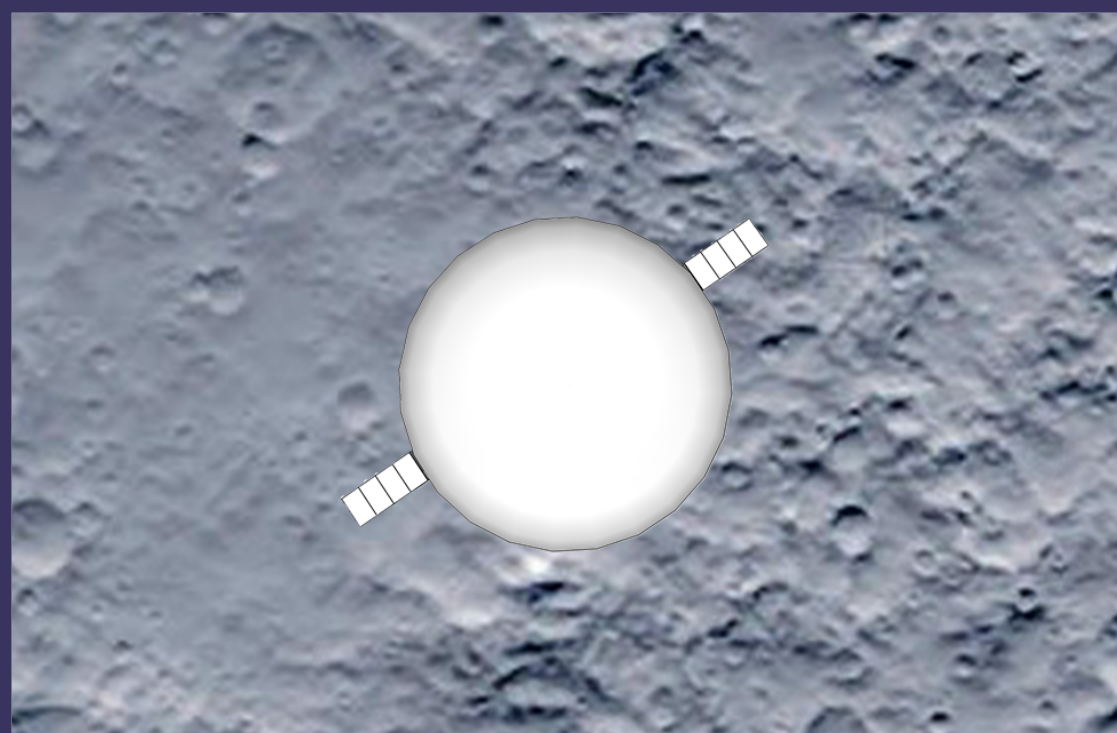


配置図 マリウスの丘付近：縦穴

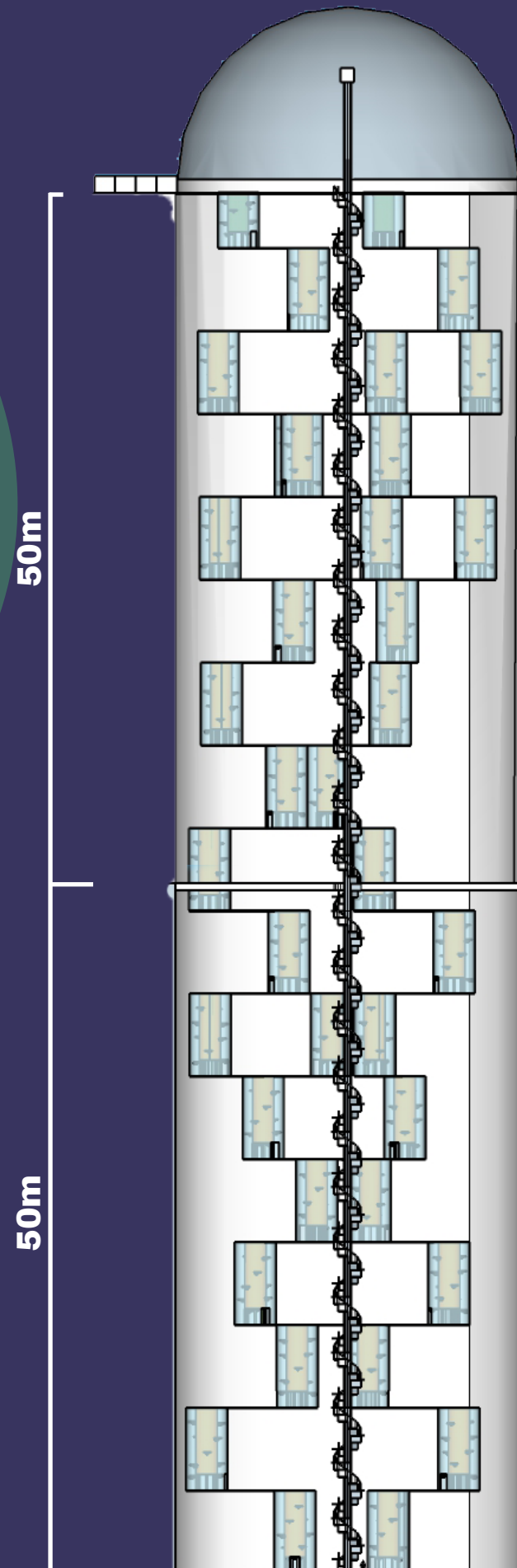


敷地は、月の表側 マリウスの丘にある縦穴を選んだ。
この縦穴はかつて溶岩が流れて固まってできた「溶岩チューブ」と呼ばれるものであり、深さ数十m～数百m、長さは数十kmにも及ぶと推測されている。
今回の提案では、直径50m、深さ100mと仮定して設計した。
各機関で居住地や基地として利用するのに適していると言われているこの縦穴をあえてレジャー施設として提案することが今回のこの提案の最大の目的である。

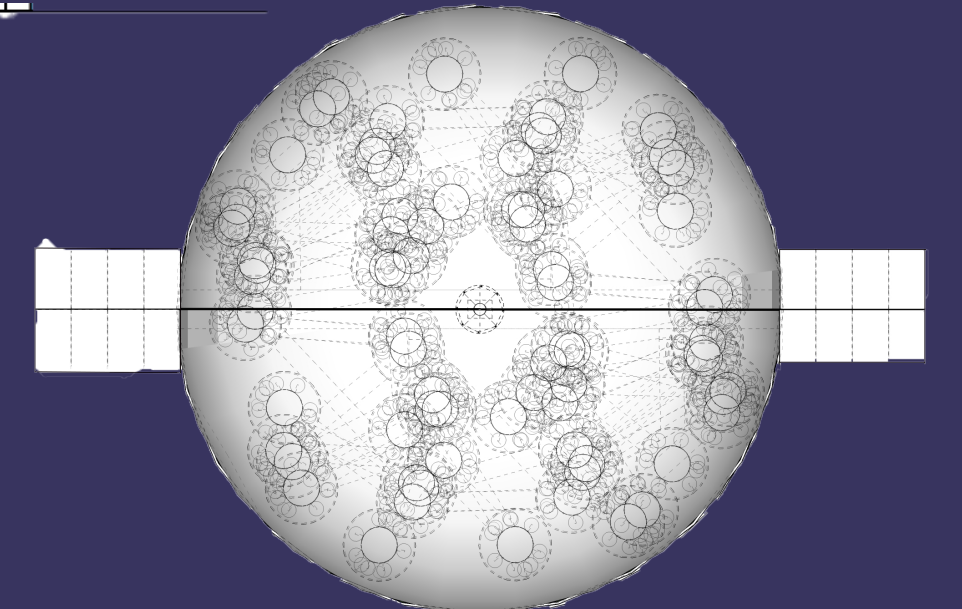
鳥瞰図



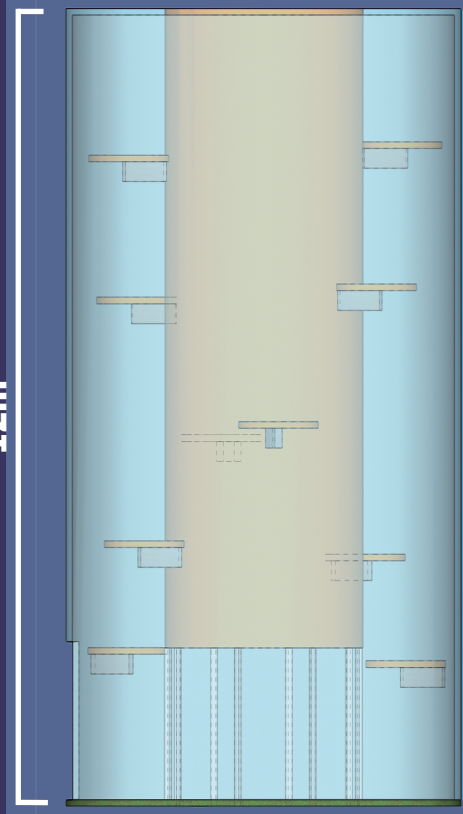
全体立面図



全体平面図



部分立面図



部分平面図

